

講義名	地誌学		
担当教員	藤原 喜美子		
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 1時限	授業形態	講義
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

テーマ：地誌から見た日本の地域性
この講義の目的は、日本の各地域にねざす地域性を読み取り、理解していくことにある。地誌は各地域の自然、社会、文化などの特性を記述したものである。そこで、近世（江戸時代）の頃に記された地誌（紀行文）を題材に取り上げ、現在の様子と比較しながら、各地域の生活文化の特質を考察する。

到達目標

学生が、講義の内容を理解した上で、地誌（紀行文）に記された当時の生活の特色（地域性）に気づき、自らの言葉で説明できるようになる。

提出課題

1. 講義では、毎回、感想文や授業の確認内容などを記入し、小レポートとして提出してもらう。感想文のテーマは、授業ごとに伝える。
2. 小レポートとは別に、講義に関連した指定のテーマについて、レポートの提出を求める。レポート課題の詳細は、別途、10月後半に、講義中の説明ならびにRYUKA portalの掲示を通して指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

毎回の講義に書いてもらう感想文の内容は、提出後に次の回の授業などで、日本の生活の特色（地域性）の事例として紹介する。

評価の基準

評価は、平常点（各回の感想文や授業の確認内容を記した15回分の小レポート、60点）、レポート（40点）を総合して行う。
評価基準は、第1回目の講義の時にシラバスの用紙を配付し、詳細を伝える。

履修にあたっての注意・一言他

この講義では、プリント資料として、主に近世(江戸時代)に記された地誌(紀行文)を使用する。現代の文章とは、かなり異なる表現や記述が多くみられるので、辞書を使用して言葉の意味を調べるなど、予習や復習を各自でしっかりと行うこと。
調べた内容や大事だと思ふ箇所はメモをとること。
講義中に私語をして、他の人の受講の妨げにならないように注意すること。

教科書	.使用しない。				

プリント資料及び参考文献

<プリント資料>
各時間、プリント資料を配布する。
プリント資料は無くさないように保存すること。
<参考文献>
講義中に適宜紹介する。

授業計画

「対面を原則とする科目」である。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況により、シラバスの修正をすることがある。授業の進め方の詳細は、後期の第1回目の授業で説明する。

1. 地誌学とは
地誌をどのようにとらえるか
2. 菅江真澄遊覧記から見た地誌
養蚕の生活
3. 菅江真澄遊覧記から見た地誌
秋田の生活
4. 東遊雑記から見た地誌
山形の生活
5. 東遊雑記から見た地誌
岩手の生活
6. 東遊雑記から見た地誌
宮城の生活
7. 利根川図志から見た地誌
利根川の利用
8. 利根川図志から見た地誌
利根川沿いの神社
9. 利根川図志から見た地誌
江戸の生活
10. 秋山記行から見た地誌
長野の生活
11. 和州巡遊記から見た地誌
奈良の神社
12. 都名所図会から見た地誌
京都の生活
13. 都名所図会から見た地誌
京都の神社
14. 播州名所巡覧図会から見た地誌
兵庫の生活

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習
次回の授業範囲の準備学習として、シラバスの授業計画に記してある授業のテーマを確認し、そのテーマについて興味のある事柄を1つ調べる。また、各回の講義の最後に、翌週の講義のキーワードを紹介するので、翌週までにキーワードなどの言葉の意味を調べておく（約2時間）。
復習
講義終了時、その日の講義内容を確認しながら、内容に関わる感想文を出席カードに記入する。また、各自で、その日の講義の要点（キーワードやポイント）等を確認する（約2時間）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

教養一般科目は、各学部学科の専門分野とは領域の異なる多様な科目を配置することで、広く、ときに深い教養を身につけて総合的な判断力や応用力を養うための科目群である。この科目では、地誌（紀行文）に記された近世の生活の特色（地域性）に気づき、地域の特色の知識を身につける。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

この講義は、プリントを用いた講義の形式で進める。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。授業担当者は民俗学（生活文化史）に関わる現地調査や文化財保護業務の実務経験を有しており、その実務経験を活用し、地域の特性を紹介しながら授業を行う。

備考

「対面を原則とする科目」である。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況により、シラバスの修正をすることがあるので、詳細は、後期の第1回目の授業で説明する。
講義に使う資料は、江戸時代を生きた人々が残した記録である。江戸時代に見聞した事や考えた事など、当時の生活の様子が記録として残り、その当時の生活を知る貴重な資料として現在に伝えられている。現在の類似点もあれば、相違点もある。
そこで、テーマごとに、現在の生活と比較しながら資料を読んでもらいたい。一方、日頃から自分の周囲の景色をながめ、どのような特色があるのか、周囲の事柄に意識を持つきっかけにってもらいたいと思う。